



しかし、この地域医療を突き詰めて参りますと、予防医学も避けて通れません。障害の進行予防も含め、健常者の健康増進となると保健医療の取り組みだけでは不十分です。運動療法を通じて運動・スポーツの有用性を理解したリハ科医としては、運動・スポーツによる健康増進活動への衝動に動かされました。

「みらい医療推進センター」は、平成21年7月に設立され、県民の健康増進など県民医療への貢献や大学の機能分担と拡充、学生・医療人の研修の場、医療情報の発信の他に中心市街地の活性化にも大きく貢献することを目的としています。このセンターは診療所機能と研究所機能の2本柱からなり、

医療としてのリハが必要な患者さんは診療所での保健医療を、健康増進目的の運動・スポーツは「げんき開発研究所」での有料運動・スポーツ指導となります。

なかでも、「げんき開発研究所」は、みらい医療推進センターの中核施設として、「人工気候室」を完備しており、暑熱、寒冷環境に向けてのトレーニング、生理学的評価が可能です。「動作解析装置」では歩行をはじめ、ランニング、ピッチングフォーム等のスポーツ動作解析も可能です。その他に、様々な最新のトレーニング機器を多数完備し、リハ科医やスポーツドクターを中心に、専門のトレーナーも担当します。そして、医

療的アドバイスを必要としたり、メディカルチェックを希望するトップアスリートもここに集います。

現在、パラリンピック選手の医科学測定基幹施設、JOCの競技別ナショナルトレーニングセンター「セーリング」のサポートをはじめ、和歌山県国体選手の医科学サポート施設として県下のエリート選手の医科学サポートを実施しています。トップアスリートから趣味でスポーツを楽しむ方、また、健康増進のために適度な運動を計画されている方に、医学的なデータに基づくトレーニングメニューの研究・開発・提供など行ってまいります。

詳しくは、この4月から開設したHP (<http://wakayama-med-reha.com/>)をご参照下さい。興味をお持ちの方は、実際に見ていただき、ご意見をいただければ幸いです。よろしくお祈りいたします。

同みらい医療推進センター 伊藤倫之、三井利仁
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 田島文博

新専門医 に聞く

平成24年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

上口 正 兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリテーション科

このたび、リハビリテーション専門医に加えていただきました上口と申します。脳神経外科を長く専門としておりましたが、平成18年4月よりリハビリテーションの勉強をはじめました。大阪近郊のいくつかの回復期リハビリテーション病院、さらに東京、横浜で訓練をさせていただく機会が与えられました。そしてその数年間で、多くの先生方のお世話になりました。試験に合格できたのは、その皆様のおかげです。お礼を申し上げます。現在もそして今後もリハビリテーション科の医師として働きます。自分に与えられた役割、自分に出来ることをよく考え、その上で皆様のお役に立ちたいと考えております。よろしくお祈りいたします。

小金丸 聡子 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

このたび、専門医となりました兵庫医科大学リハビリテーション医学教室の小金丸と申します。これまで、リハビリ臨床を学ぶとともに、現在急速に発展しつつある神経科学分野の知見をリハビリテーション医学へ応用することを目標に研究を行って参りました。臨床現場ではまだ、マッサージ等を中心としたリハビリ医療が行われている所もあり、臨床・研究共に課題も多いのですが、今後とも、研鑽を重ねていきたいと存じます。御指導・御鞭撻の程宜しく御願ひ申し上げます。

齋藤 淳 名取病院 リハビリテーション科

今回の専門医試験合格につきまして、兵庫医大道免教授、関西リハビリテーション病院坂本先生、松本先生および様々なバックアップをいただいた医局の先生方に感謝いたします。

当初、リハビリテーション専門病院に入職し、今から考えますと温室のように教育していただきました。しかし、リハビリ医がいない病院（在籍している現病院ではありません）では、「リハビリ処方・指示は我々でもできますよ」と言われ、医師の束縛を受けずに自由を謳歌したいという人々も少なからずいます。リハビリ医としての価値を示し、そのような考えを持つ人々を黙らせる仕事が必要です。その観点では、リハビリ科の gold standard の教科書の適否を考える時期に来たようです。

**酒井 良忠 神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野**

この度、専門医を取得させていただきました、神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野の酒井良忠と申します。附属病院リハビリテーション部長を兼任しております。平成8年神戸大学卒業後、整形外科に入局し、骨折、骨粗鬆症と関節リウマチの治療に携わり、平成21年より姫路獨協大学医療保健学部にてコメディカルの教育に携わった後、本年4月より現職に就任しております。大学病院におけるリハビリテーションのニーズは増大する一方で、各科の協力を得ながら、早期のリハ開始とADL獲得を目指しております。診療、教育、研究と地域連携に微力ながら尽くしてまいりますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いたします。

**阪上 芳男 滋賀医科大学リハビリテーション科**

私は平成9年滋賀医科大学を卒業後同大学第3内科（現内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓・神経））に入局しました。神経内科医として長らく勤務しておりましたが、平成20年滋賀医科大学で回復期リハビリ病棟が立ち上げられたのを機にリハビリ科配属となり、現在に至ります。リハビリ医学とは何か、リハビリ科医の特異性とは何かに悩む毎日でしたが、専門医を目指し研鑽を重ねていくことでおぼろげながら答えが見えてきたように思います。滋賀県は神経内科医、リハビリ科医ともに少ない地域であり、この度認定を受けたことを新たなスタートと捉え、地域医療に役立つべく、より研鑽に励む所存です。御指導御鞭撻の程よろしくお願申し上げます。

**島田 憲二 兵庫医科大学ささやま医療センター リハビリテーション科**

このたびリハビリテーション専門医に加えていただくことになりました島田憲二と申します。平成5年に京都府立医科大学を卒業後、京都府立医科大学の関連病院で脳神経外科医師として14年間勤務しました。その間に、リハビリテーションの必要性を実感したため平成19年から兵庫医科大学リハビリテーション部の道免教授にご指導いただきながら、回復期リハビリテーション病院でリハビリテーション科医師として勤務し、現在の病院に至っております。リハビリテーションは多職種のスタッフが力を合わせておこなうチーム医療と実感しております。そのチームの一員としてリハビリテーション科医師の役割を十分に果たすために今後も勉強していかなければならないと思っています。

**下松 智哉 和歌山県立医大 リハビリテーション科**

この度、リハビリテーション科専門医の認定をしていただきました下松 智哉（しもまつ ともや）です。

リハビリ科で働き始めた当初は、全身管理にはじまり嚥下機能評価・器具作製・患者さんの退院後の生活環境調節等、携わる分野があまりに広範囲であり挫けそうになることもありましたが、しかし、細心の注意を払いながらリハビリ訓練を施行すれば、必ず訓練開始前より良くなることを実感するにつれ、この科に携われることにやりがいを感じるようになりました。

患者さんの喜びに貢献できるよう、さらに研鑽を積んでいきたい所存です。

**野口 和子 大阪府立・急性期総合医療センター リハビリテーション科**

この度専門医の認定をいただきました、野口和子と申します。平成12年より整形外科医として大阪市大病院、淀川キリスト教病院、旧・府立身障センター等で勤務してまいりましたが、2人の子供を出産後、平成19年より府立急性期総合医療センターのリハビリ科に勤務させていただいております。仕事も家庭もモチベーションの上がり下がりを繰り返していましたが（今もそうですが）、脊髄損傷患者さんの回復期リハビリに携わるようになり、陳腐な表現ですが、感動しました。御縁があつて現職にいるからには・・・と、重い腰を上げて専門医取得を志した次第です。守備範囲が広すぎて自由度の高すぎるリハビリというジャンルで、自分に何ができるのかを考えるとため息が出ますが、とりあえずは目の前の患者さんに色々なことを教えていただきながら、逃げ腰な自分に鞭を入れ、もっと研鑽を積んで一人前のリハ医にならねばと思っています。今後とも御指導をよろしくお願致します。

**濱中 紀成 第二岡本総合病院**

この度、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました濱中紀成（はまなか としなり）と申します。平成18年に滋賀医科大学を卒業し、第二岡本総合病院で初期研修を行い、その後同院リハビリテーション科にて勉強させていただいております。これまで幅広く様々な症例を経験させていただいた高橋守正先生に感謝申し上げます。

これからも諸先輩方の御指導をいただき、患者さんおよび御家族の方が心から満足していただけるような地域に根ざしたリハビリテーション医療を提供できる様に努力してまいりますので、御指導、御鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願申し上げます。



坂野 元彦 和歌山県立医科大学リハビリテーション科

この度、専門医と認定して頂きました和歌山県立医科大学の坂野と申します。

現在は当科の地域医療再生プロジェクトの一環として、和歌山県那智勝浦町の公立病院に勤務しております。過疎化が進んだ地域では医療崩壊が深刻な問題となっており、当科より医師を3名派遣し、地域住人の健康を維持するため、各科にとらわれない総合的な診療を行っております。地域に根ざした医療を行っていただけるよう毎日がんばっております。

今後ともよろしくお願ひいたします。



和田 陽介 東神戸病院 内科

私は、卒後6年間、内科医として勤務しておりました。市中病院の急性期医療や診療所の在宅診療に関わる中で、脳卒中後遺症や廃用症候群、摂食嚥下障害への対応の必要性を痛感し、リハビリテーション医を志しました。聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院で急性期、回復期、摂食嚥下リハを、兵庫県立総合リハビリテーションセンターで切斷、脊髄損傷、脳卒中のリハを学びました。現在は市中病院で回復期リハ病棟の担当医を務めながら、急性期の摂食嚥下リハや研修医教育にも従事しています。今後は、プライマリケアの中で質の高いリハビリテーションを提供できるよう研鑽を重ねていきたいと考えています。

今後とも、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

特 報

第5回アジア義肢装具学術大会開催に向けて

**兵庫県立リハビリテーション中央病院
ロボットリハビリテーションセンター長 陳 隆明**

学術的有利性のみならず、アジア諸国との連携をより強固とする上でも有益と考えています。経済的にも著しい発展を遂げているアジアを核とした義肢装具大会を継続していく事は、これまで欧米諸国を主導としてきた義肢装具の有り方に一石を投じるものであると考えます。

ぜひ多くの皆様に参加していただき、御支援を賜りたいと考えております。

学術大会の開催概要は以下のごとくです。詳細は大会HPをご覧ください。

アジア義肢装具学術大会（以下アジア大会）は、現在3年ごとに開催されているものであり、アジアの地において義肢装具の最新知見を得られる絶好の機会であると同時に、アジア各国の義肢装具関係者の交流の場としても貴重な機会を提供しております。第5回大会を日本（神戸）で開催する事により、

第5回アジア義肢装具学術大会 (APOS2012)

Asian Prosthetic and Orthotic Scientific Meetings

大会テーマ：アジアの力を示そう (Powerful Asia)

会 期 2012年8月3日(金)～5日(日)
 会 場 神戸国際会議場 TEL：078-302-5200
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1
 大会長 陳 隆明 (兵庫県立リハビリテーション中央病院)

主催団体 国際義肢装具協会日本支部 (ISPO) / 第5回アジア義肢装具学術大会組織委員会
 共催団体 社団法人日本義肢協会 / 日本義肢装具学会 / 日本義肢装具士協会 / 兵庫県立リハビリテーション中央病院

主要プログラム

- ・特別講演 山海 嘉之 先生 (筑波大学大学院システム情報工学研究科)
 王 喜太 先生 (National Research Center for Rehabilitation Technical Aids)
 Therdchai Jivacate 先生 (Prostheses Foundation of H.R.H. The Princess Mother, Thailand)
 Bengt Soderberg先生 (ISPO, The International Society for Prosthetics and Orthotics 副会長)
- ・シンポジウム 筋電義手に関するシンポジウム(アジア諸国の筋電義手専門家による)
 ロボットリハビリテーションに関するシンポジウム (日本国内の著名な工学研究者による)
- ・マニファクチャラーズワークショップ
- ・一般演題 (口演/ポスター)

大会ホームページ <http://www2.convention.co.jp/aposm2012/>

お問合せ先 第5回アジア義肢装具学術大会 運営事務局 (日本コンベンションサービス株式会社 神戸支店)
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 神戸国際交流会館 6階
 TEL：078-303-1101 FAX：078-303-3760 E-mail：aposm2012@convention.co.jp